

週報2023年2月12日

■教会標語聖句

望みを抱いて喜び、患難に耐え、
絶えず祈りに励みなさい。

ローマ人への手紙12章12節



シオン教会信仰指針
「祈りに励む教会」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
北九州シオン教会

牧師: 山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395 (FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2022年2月12日

ピアノ: 赤松姉 オルガン: 力丸勝子師

司会: 大熊兄 献身の祈り: 利光姉 メッセージ: 山崎牧師

開会の祈り		司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和	
賛美	新聖歌 261「流し給いし」	
祈禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう! *	
賛美	新聖歌 233「祈りの園生を」	
献身の祈り		利光姉
賛美	新聖歌 182「ただ信ぜよ」	
賛美	コーラス 60「もうふりむかない」	
聖書箇所	ヨハネによる福音書 12章 1-8節	
説教	「部屋いっぱい広がる香り」	
祈禱	「応答の祈り」	
頌栄	「主の祈り」	
祈禱		山崎師

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈り合っていますか

説教要約

ヨハネによる福音書 12章 1-8節 「家いっぱい広がる香り」

今日は有名なナルドの香油の話です。マリヤはイエス様の為に非常に高価な“ナルドの香油”を使いました。聖書はこの香油を説明するにあたって、丁寧に非常に高価な物だと書いています。

当時のイスラエルの風習によると、財産を銀行に預けるのではなく、金や銀、香油等にしていたそうです。そして家族が娘の将来の幸せ(家庭を築く事)を願ってその香油を相続していたようです。それを受け取った娘は結婚の費用にあてていたそうです。

今回の“香油”がそのような物であったか、定かではありません。しかし大切な事は、香油の香りが部屋いっぱい広がったと言う事です。つまり、自分の将来の為に取って置いた(7節)香油ではなくイエス様の為だけに全部使った事を意味します。少量であれば、少しの範囲の人が、その香りに気付いたでしょう。しかし、マリヤが使った香油によって家全体に香りが広がりました。

「真理を行う者は光りのほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。」(ヨハ3:21) このイエス様の言葉はヨハネの福音書を理解する上で重要な言葉です。マリヤは“真理を行う(追及する)者”“光りに導かれた者”です。

具体的に何を行ったのかと言うと、香油をイエス様の“葬りの日”の為に使ったと言う事です。“葬りの日”とは十字架の事です。福音書全体で言えることですが弟子達はイエス様が十字架にかかる意味を理解出来ません。正確には理解しようとしません。理由は自分の利益を追求していたからです。(ヨハ12:6)マリヤが追及したのは自分の利益ではなく、神の真理です。その結果たどり着いたのは、犠牲の伴う愛です。

ヨハネの福音書12章以降、十字架の道を進み行かれます。13章冒頭に「その愛を残るところなく示された」とあります。人の素行、

理解、条件によって変える愛ではなく、無条件の愛でした。イエス様は友の為に命を捨てました。それは信じる者がもれなく永遠の命を得る為です。十字架はそのための尊い犠牲でした。イエス様が惜しみなくささげた命により、愛の香りは世界中に広がっています。そして“働き人”によって今も広がり続けています。

Iコリント13章5-6節「(愛は)自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。」と書いてあります。この箇所からわかる事はイスカリオテのユダがマリヤに対して怒ったのは自分の義を主張する為です。つまり思いやりからではなく、自分の利己心、虚栄心の満たしの為です。

私達にとっての本当の利益は何か?聖書が私達の心に投げかける質問です。虚栄心や利己心は一時的な心の拠り所にはなっても、魂の救いにつながりません。救いとは主の愛です。私達の本当の利益は主からの愛を得る事です。パウロは言います。「(信仰、知識、賜物に満ちても)愛が無いなら何の値打ちもありません。」

今、私達の家や職場、学校の中で広がっている香りは何の香りでしょうか?一粒の麦が地に落ちなければ一粒のように、香油も使わなければ香りが広がって行きません。宣教と伝道の第一歩は愛の香りを放つ事です。そしてそのために大切な事は、十字架の意味を何度も思い起こして、いつも自らの魂の糧にしていく事です。主が願われる事は、私達の存在を通じて、キリストの香りが放たれる事です。主の愛が隔々に広がって行きますように、日々祈り、信仰を現わして参りましょう。

ヨハ 12:7 イエスは言われた。「そのままにしておきなさい。マリヤはわたしの葬りの日のために、それを取っておこうとしていたのです。」